

しかし、小屋の内部には、外観の素朴さとは裏腹に、2人には見慣れない近代的なものがそこかしこにあった。

「まあ、お2人さん、そのソファにでも座っておくれ。お嬢さんは足を痛めておるのかな？先程からかなり辛そうじゃが…」老人はそう言いながら、年季が入って多少へたりだしているソファを手で示した。

「マグワート爺さんの話だとうやら崖から落ちたようだよ。その時の衝撃のせいで記憶もないらしい。何処の誰か、名前さえ思い出せないようだ。だから僕は彼女のことは「お嬢さん」としか呼べないんだよ」ウイザットは答えながら、マジリアルを庇いつつ3人掛けソファに座らせ、続いて自分も隣に座った。

「マグワート…？」「ああ、崖から落ちて足に怪我をしていたお嬢さんのことを助けた爺さんの名前だよ。それにしても、彼とあなたはソックリを通り越して同一人物に見える位だ」ウイザットがそう言うと、老人は「ワシの名前もマグワートじゃ」そう言つて顎鬚を撫でた。

「まさか爺さん、僕達をからかっているのか？本当はマグワート爺さんなんだろう？」「いや、からかつてなどおらんぞ。ワシの家は代々長男はマグワートという名前なんじゃよ」そう言いながら、老人はパーソナルソファに腰を下ろした。

「ていうことは、爺さんは、その

う…あなたは、あのマグワート爺さんの子孫??」「かも知れんな。実は我が家にはおかしな言い伝えがあるんじや」「おかしな言い伝え？」「今度はマジリアルが身を乗り出して聞き返す。

「まあ、その話の前に、どれ足を見せてご覧」老人は立ち上がり、マジリアルに近付いた。「おお、これはいかん。だいぶ腫れておるな」そう言うと老人は隣の部屋へと消え、暫くして戻つて来るとマジリアルの足に貼つてあるものを剥がし、そこに氷の入ったビニール袋をタオルで捲いて充てがった。

「爺さん、それは何だい？氷…かい？この暑いのに何処に氷があるんだい？」ウイザットが不思議そうに言ったが、老人はウイंकをして見せたただけだった。

不満そうなウイザットを尻目に、今度は老人は隣の部屋から何やらお盆に載せて持つて来た。そこにはダークブラウンの泡立つ液体の入ったグラスが3つ載つていた。更に彼はカランカランという音をさせながら、その3つのグラスをコーヒーターブルのそれぞれ3人の前へと置いた。グラスには白い筒状のものが刺さっている。

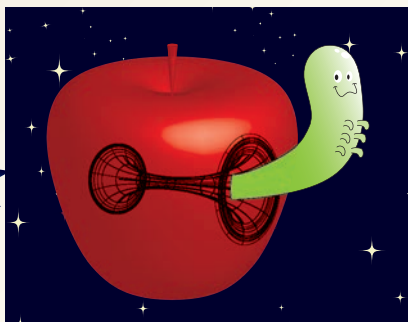
「これは何だい？」ウイザットの質問に「いいから飲んでご覧」と老人は言った。「うわっ！チリチリしていて飲み難い上に薬草みたいな味じゃないか」「本当！こんな飲み物初めてだわ。不味い様な甘い様な…」2人は一口飲むか飲まないかで顔を擧げた。しかし、

顔を擧めつつ更にもう一口飲み首を傾げながら更に飲み続けた。「ははは。案外癖になる味じゃらう？」老人は笑った。

そして、「我が家のおかしな言い伝えについて話そう」と言いながら、再びパーソナルソファに座り、言葉が続けた。「ある時、過去から人がワープしてやつて来る、という言い伝えじゃ」「ワープ？」「そうじゃ、ワームホールを通つて時間という壁を超える現象じゃよ」「ワームホール??？虫喰い穴のことかい？」「そうじゃ、ワームホールというのは、位相幾何学の分野の考え方で、時空のある一点から別の地点へと続くトンネルの様なものことじゃ。そして、その名前は林檎の虫喰い穴に由来するんじやよ。林檎のこちら側から裏側に移動するには円周の半分の距離を移動する必要がある。が、虫が中を掘り進んだ場合、その距離は円周の半分に比べて短くなる」

2人は返事をする代わりにダークブラウンの液体を更に喉へと流し込んだ。

つづく



## チャネリング相談

**Q** 子供の頃から感じていることなのですが、母は私よりも弟を大事にします。親は子供を平等に愛するものじゃないのですか？これは過去世の因縁でしょうか。(Pasadena 在住 Jさん)

**A** 親子関係に限らず、今世での縁は確かに過去世から引き摺っている場合も多いものです。が、全てが因縁という訳ではありません。

親子の縁というのは、基本的に今世では、親となった魂が子となった魂の容れものである肉体を、大人に成る迄奉仕としてテイクケアするということが一番であり、子は育ててもらう中で愛と感謝を学ぶということが大前提となっています。但し、そもそもの魂は同じ魂の村から来ている、それぞれの魂の学びの道はたとえ親子でも兄弟姉妹でも違い、それがその人が持つ波長の違い、人生模様の違い、となります。

その波長の違いにより、親子であっても波長共鳴の度合いも変わるので、その度合いが大きければエナジー交換がスムーズにいいますが、度合いが少ない場合、そこにフリクションが起こります。親としては複数居る子供達全員を表面意識では平等に扱っていても、波長共鳴の仕方如何で、受け取る側の感じ方が違うものとなる場合があります。それでも基本的には親の子供への愛情は特殊な場合を除いて平等です。Jさんが感じる不公平感は波長共鳴の度合いの違いから来ているものです。

また、親子は時にストレートな関係性のみならず、ツイストした関係性の中で愛を学び合うという試練を敢えて魂同士が決めて来ている場合もあり、それもまた親子の愛の形でもあるのですが、表面的には愛としては感じられないという場合もあります。

親子の縁、親子の学びというものとはとても深いものであり、表面だけでは測れないものでもあるのです。

注意：魔女ともえが述べる内容はチャネリングによるひとつのサジェスチョンです。